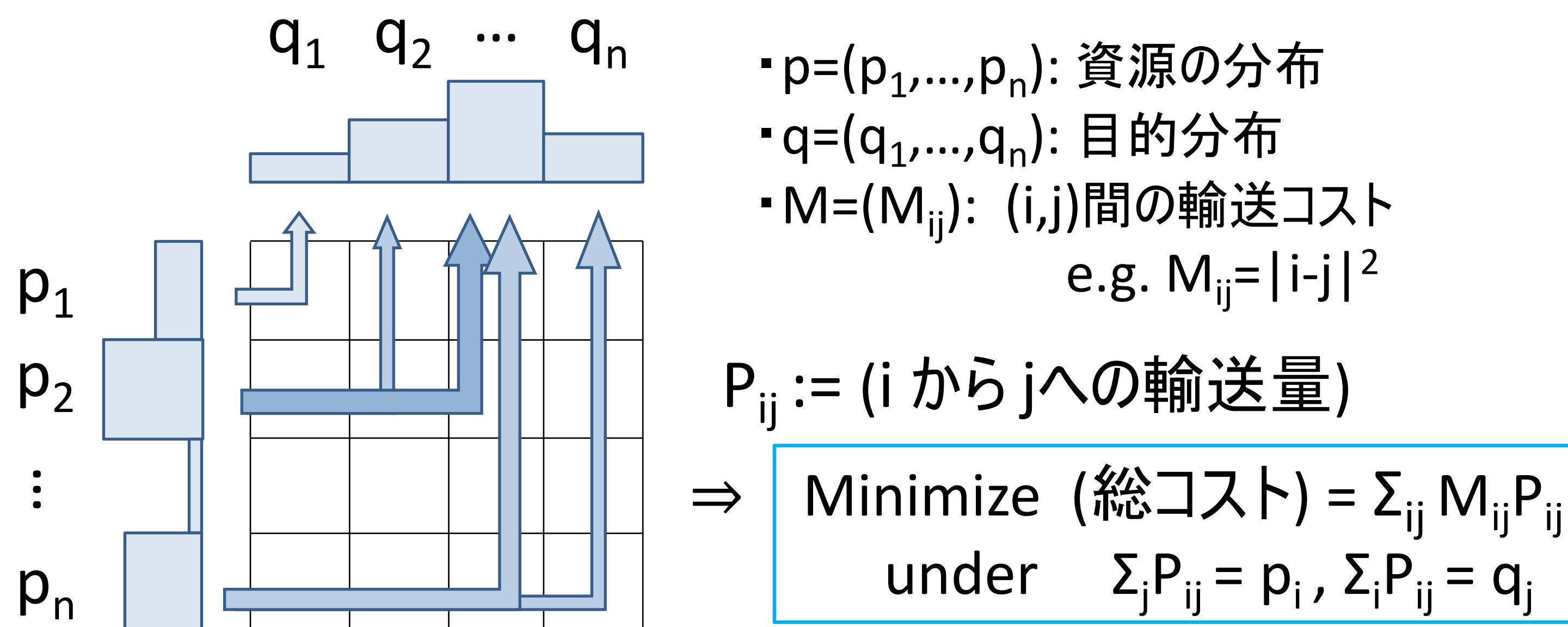




Wasserstein重心と情報幾何学 筒井大二

最適輸送問題: 資源を目的地に輸送する際のコスト最小化



エントロピー緩和 (M. Cuturi, 2013)

$$C_\lambda(p, q) := \min \sum_{ij} M_{ij} P_{ij} - \lambda H(P) \text{ under } \sum_j P_{ij} = p_i, \sum_i P_{ij} = q_j,$$

$\lambda > 0, H(P) := -\sum_{ij} P_{ij} \log P_{ij}$: Shannon エントロピー

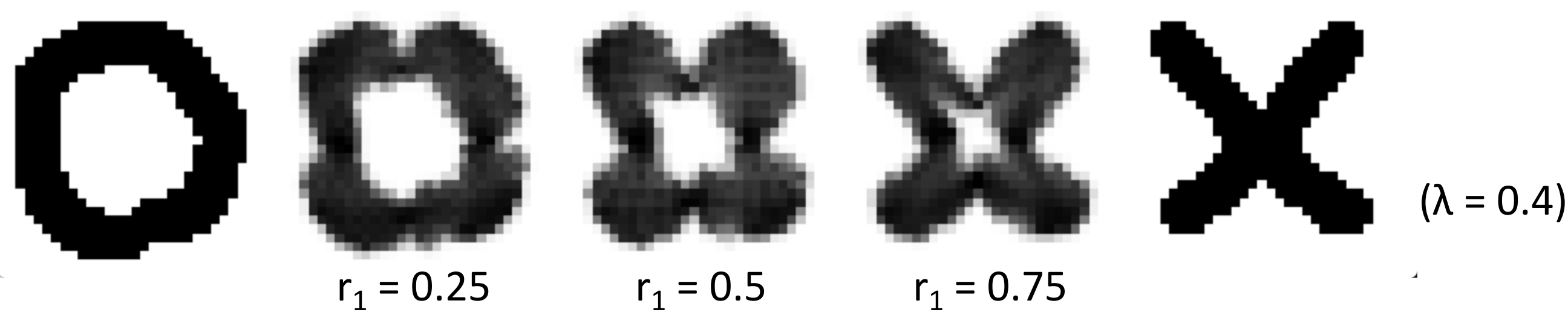
C_λ を緩和されたWasserstein距離とよぶ(注: $\lambda > 0$ で一般に距離を定めない).

- 最適解を小さな計算コストで得られる (Sinkhorn アルゴリズム)
- Sinkhorn アルゴリズム = e-射影の反復 (Amari et al., 2018)
→ 情報幾何的に自然

重心問題: Wasserstein距離 C_λ に関する重み付き重心

$$\text{Minimize } \sum_k r_k C_\lambda(p^k, q) \text{ w.r.t. } q$$

for given $p^1, \dots, p^N, r_1, \dots, r_N$, with $\sum_k r_k = 1$



- 高速に計算するアルゴリズム (Benamou et al., 2015)
- 再びe-射影の反復 → 情報幾何からの一般化が可能

一般化エントロピー緩和

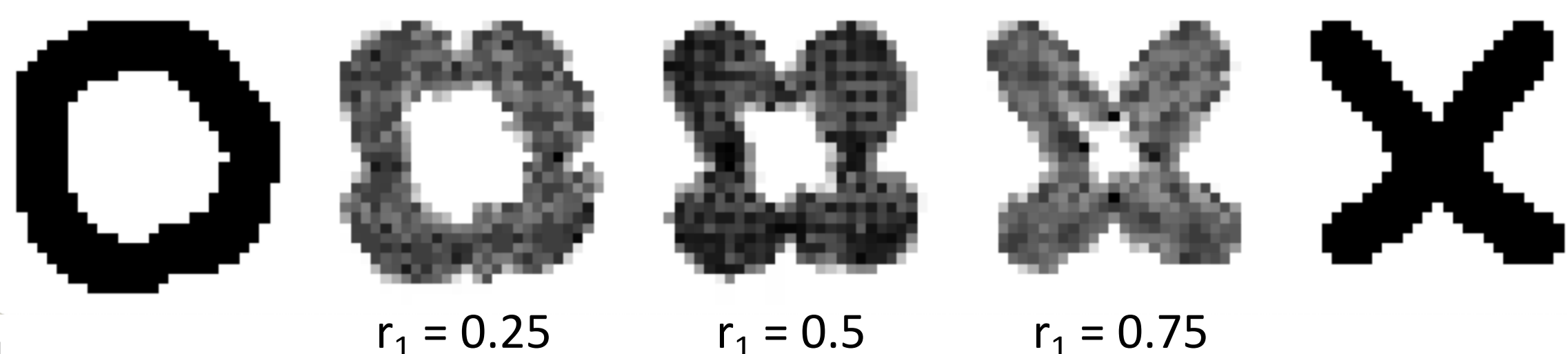
$$C_\lambda^\Phi(p, q) := \min \sum_{ij} M_{ij} P_{ij} + \Phi(P) \text{ under } \sum_j P_{ij} = p_i, \sum_i P_{ij} = q_j,$$

$\Phi(P)$: 一般の狭義凸関数

- Cuturiの緩和では
- λ : 大 \Rightarrow 得られる最適解がぼやける
 - λ : 小 \Rightarrow 数値的に不安定

\Rightarrow より良い Φ によって改善できないか

例: $\Phi := 100 \sum_{ij} P_{ij}^2$ とした場合の重み付き重心

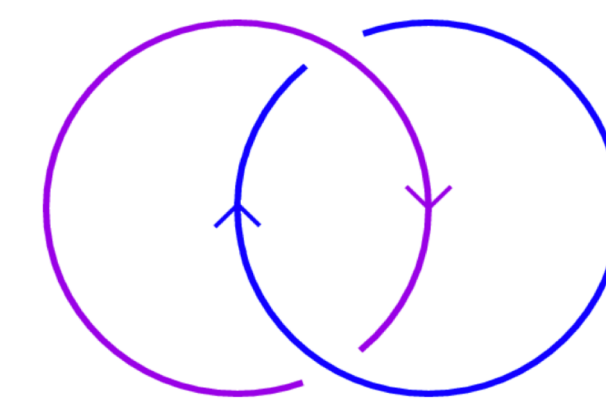


<成果>

一般の凸関数に対する最適輸送問題のエントロピー緩和と重心問題を考察し, 特に二乗ノルムによる緩和に対し, 重心の計算アルゴリズムを与えた.

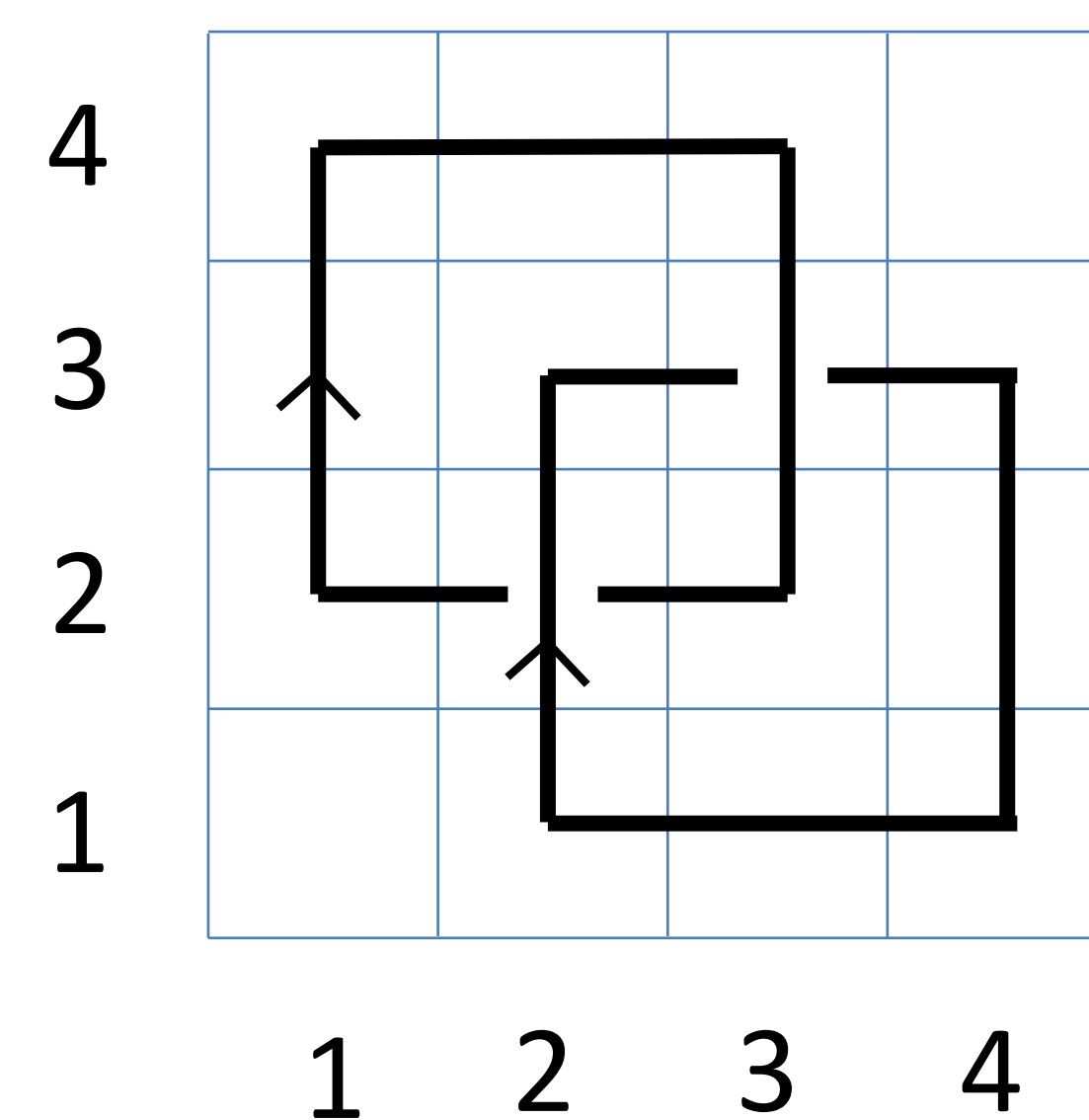
ランダムグリッド絡み目の絡み数 小鳥居祐香

絡み目 = 複数の輪っかが絡まったもの



絡み目は平面に射影することにより2次元的に表すことができる. これを絡み目図式とぶ.

グリッド図式



オーダー4のグリッド図式

- オーダーnのグリッド図式とは次のルールで構成される結び目図式である
- n個のタテの線分, n個のヨコの線分からなる
 - タテの線分は必ずヨコの線分の上を通る

定理

- 任意の絡み目はグリッド図式で表せる.
- オーダーnのグリッド図式は2つの $\{1, \dots, n\}$ の置換により定まる.

絡み数 L_k = 絡み目の絡み度合いを測る量

$$L_k = \frac{1}{2} (\# \text{ (crossings with } k \text{ strands)} - \# \text{ (crossings with } k-1 \text{ strands)})$$

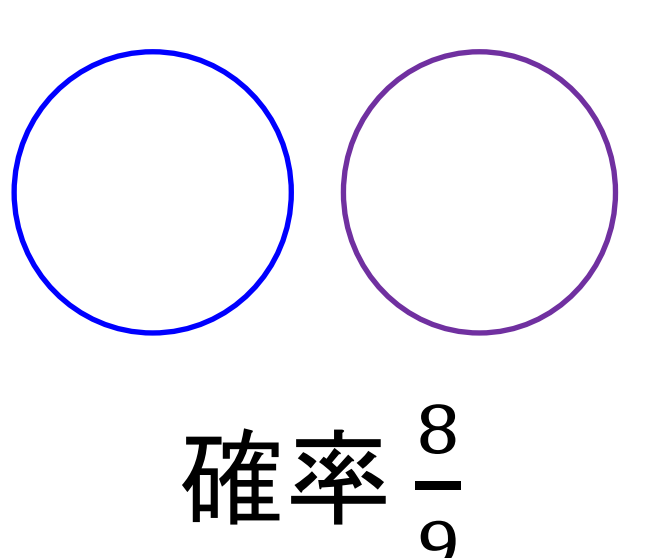
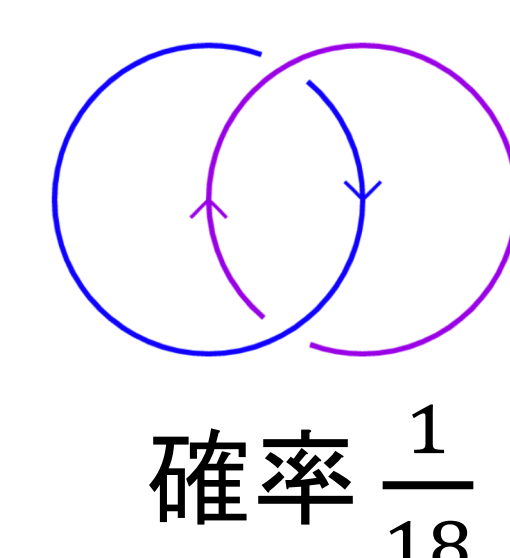
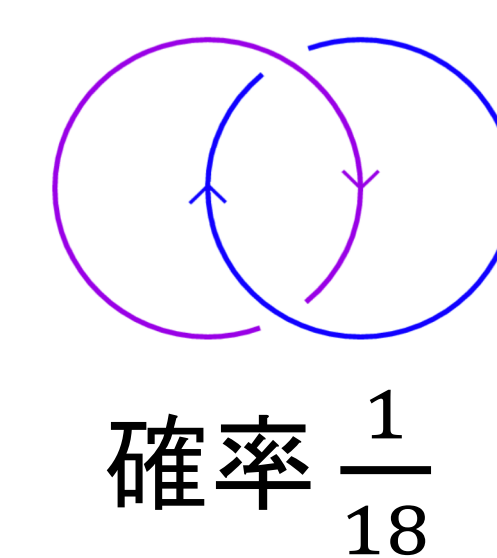
ランダム絡み目 = 絡み目をランダムに構成したときの確率的な振る舞い

<定義>

グリッド図式を用いたランダム絡み目(ランダムグリッド絡み目)を, グリッド図式を表す2つの置換をそれぞれ一様ランダムにとることで定義した.

Ex.

オーダー4のランダムグリッド絡み目



<成果>

ランダムグリッド絡み目の絡み数のモーメントがグリッド図式のオーダーに関する多項式になる. さらに, 多項式の次数はモーメントの次数以下となる. 特に偶数次モーメントの場合, 0になる.